



2016年5月12日

各位

会社名 日産化学工業株式会社
代表者名 取締役社長 木下小次郎
(コード番号 4021 東証第1部)
問合せ先 経営企画部 主席 松岡 健
(TEL 03-3296-8320)

長期経営計画『Progress2030』並びに中期経営計画『Vista2021』スタート
—未来を創造する企業へ—

当社グループは、2013年4月に3か年の中期経営計画『Vista2015 Stage II』を始動し、基本戦略である「新事業・新製品の創出」と「事業の構造改革推進」に基づく諸施策を遂行してまいりました。新製品では、動物用医薬品原薬、ディスプレイ材料の新グレードなどが伸長したことに加えて、有機ナノ粒子、3次元培養培地など新たな材料の開発が進展いたしました。また、その基盤となる研究インフラの整備、中国における現地法人の設立などを着実に進め、最終年度の営業利益は、目標を26億円上回る286億円となりました。

国内外における経済動向の不透明感が増すなか、当社グループが持続的に成長するための課題は、「新たな事業領域への進出」、「市場動向に合致した新製品開発」、「研究開発力の強化」であると捉え、本年4月より2030年を見据えた長期経営計画『Progress2030』並びに2021年のあるべき姿を示す6か年の中期経営計画『Vista2021』をスタートさせました。

本経営計画策定にあたり、ビジネスモデルを「独自の革新的な技術で社会の要請に応える未来創造企業」と定め、地球温暖化、人口増加に伴うエネルギー・食糧不足など社会的課題の解決に寄与することで、社会との相乗的発展を図ってまいります。

1. 長期経営計画『Progress2030』の概要

(1) 2030年の企業像

「グローバルに変化する社会と向き合い、社内外の知を融合することで、人々の豊かな暮らしに役立つ新たな価値を提供する企業グループ」

「培った信頼と磨き上げた技術により、情熱をもって未来を切り拓く、一流の挑戦者集団」

(2) 事業領域

5つのコア技術をベースとする、「情報通信」、「ライフサイエンス」、「環境エネルギー」、「基盤」事業



(3) 基本戦略

「独自技術の進化と深化、そして拡充による新分野への進出」

1) 情報通信(ディスプレイ・半導体・無機コロイド・光機能性・センサー材料)

ディスプレイ・半導体・無機コロイド材料については、市場の技術革新に即した製品を提供する。さらに、現有技術を活かしたセンサー材料、光制御技術の確立による光機能性材料を生み出す。

2) ライフサイエンス(農薬・動物用医薬品・医薬品・生体材料)

農薬・医薬品のパイプラインを充実するとともに、新たな動物用医薬品を開発する。また、生物評価と材料設計の技術蓄積をもとに、先進医療に貢献する生体材料を創出する。

3) 環境エネルギー(電池・環境発電・熱制御材料)

デバイス評価技術を構築し、電池材料およびエネルギーの有効利用に資する材料を供給する。

4) 基盤(基礎化学品、ファインケミカル、関係会社)

封止材用等特殊エポキシ「テピック」関連の研究開発を推進し、新たな高機能化合物を上市する。

(4) 事業規模

売上高 3,000億円 (情報通信1,000、ライフサイエンス1,000、環境エネルギー500、基盤500)

営業利益 500億円 (営業利益率16.7%)

2. 中期経営計画『Vista2021』の概要

2016年度を初年度とする6ヵ年計画。

前半3ヵ年(2016-2018)をStage I、後半3ヵ年(2019-2021)をStage IIとする。

(1) 2021年のあるべき姿

「情報通信およびライフサイエンス事業が成長を牽引し、化学品と関係会社が安定的な収益を確保している」

「環境エネルギー事業の礎を築き、常に前進する将来性と存在感のある化学メーカーとしての地位を確立している」

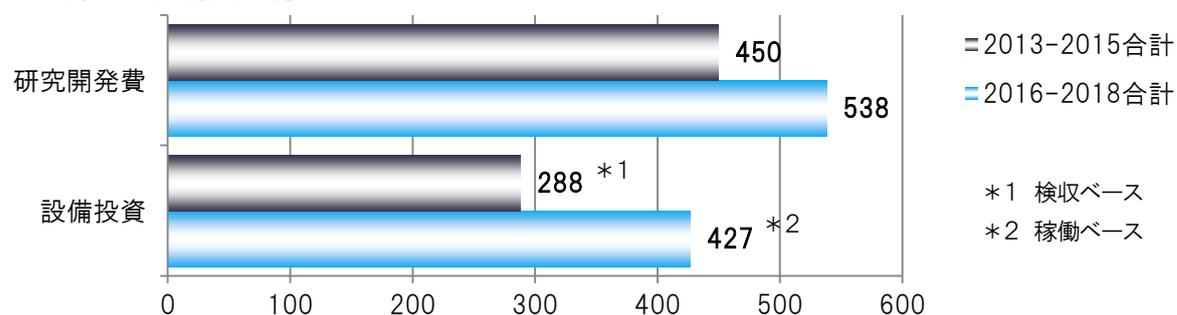
(2) 数値目標(億円)

		2015実績	2016予想	2018計画	2021計画
売上高	化学品	343	354	380	405
	機能性材料	518	553	680	829
	農業化学品	475	521	586	670
	医薬品	87	74	81	83
	卸売・その他・調整	346	373	443	513
	合計	1,769	1,875	2,170	2,500
営業利益	化学品	39	49	40	45
	機能性材料	120	117	154	184
	農業化学品	108	113	129	167
	医薬品	20	14	20	24
	卸売・その他・調整	△1	4	7	△20
	合計	286	297	350	400
経常利益		295	304	356	408
親会社株主に帰属する当期純利益		224	230	271	310

ナフサ(円/KL): 2015年度 42,800円、2016年度 35,400円、2017年度以降 51,100円

為替(円/US\$): 2015年度 上期122円、下期118円、2016年度以降 115円

(3) 研究開発費・設備投資(億円)



3. 『Vista2021 Stage I』の概要

(1) 基本戦略

- 1) 現有製品の利益の最大化
成長分野向け製品のシェアアップ、海外における事業展開の推進、コストダウン
- 2) マーケティング力の向上
顧客との密着度を高めることによる市場ニーズの把握、先端材料情報の入手
- 3) 研究開発力の強化
既存技術の磨き上げと新技術の確立、これらによる新製品開発の早期化

(2) 成長の源泉

- 1) 化学品
 - ① 高純度尿素水「アドブルー」・高純度液安の販売量拡大
 - ② 「テピック」新グレードの実需化
- 2) 機能性材料
 - ① 光IPS向けディスプレイ材料、多分岐型有機ナノ粒子「ハイパーテック」の拡販
 - ② 半導体用反射防止コーティング材・多層材料の拡販、イメージセンサー向け材料の戦力化
 - ③ シェール掘削材料によるオイル & ガス分野への参入
 - ④ 有機EL関連材料の開発と実需化
 - ⑤ 海外における生産拠点および顧客サービスの強化
- 3) 農業化学品
 - ① 水稲用除草剤「アルテア」の拡販、非選択性茎葉処理除草剤「ラウンドアップ」AL新剤の上市
 - ② 海外現地法人の設立と海外販売量の拡大
 - ③ 動物用医薬品原薬フルララネルのイヌ・ネコ経皮投与用スポットオンなどへの展開
- 4) 医薬品
 - ① 新剤の導出とパイプラインの充実
 - ② ジェネリック原薬ビジネスの拡大

(3) Stage II 以降に向けた取り組み

- 1) 情報通信
 - ① 耐熱レンズ、調光フィルム、光配線材料の開発
 - ② 次世代ディスプレイ・半導体材料の創出
- 2) ライフサイエンス
 - ① 殺虫剤NC-515、新規殺菌剤および水稲除草剤の開発
 - ② 血小板増加薬NIP-022の共同開発、抗真菌薬の共同研究推進
 - ③ 細胞培養材料のグローバルスタンダード化
- 3) 環境エネルギー
 - ① 2次電池および燃料電池用材料の開発
 - ② 環境発電材料の創出
- 4) 研究開発
 - ① 生体材料分野におけるシーズ獲得
 - ② オープンイノベーションによる先端技術の導入
 - ③ コア技術の強化および融合による、新規事業分野の開拓

(4) 経営指標

売上高営業利益率	15% 以上
ROE	14% 以上
売上高研究開発費率	8% 以上
配当性向	2016年度以降段階的に引き上げ、2018年度 40%
総還元性向	70%の維持

当社グループは、本計画の基本戦略に基づく施策を着実に実行し、コーポレートビジョン「人類の生存と発展に貢献する企業グループ」の実現に総力を挙げて取り組んでまいります。

以上